



地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向

2018
平成30年
5-20
No.549

「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけます。

月例調査レポート



戸隠神社
奥社参道
随神門

奥社へと続く参道の中程、苔むす萱葺(かやぶ)き屋根の随神門。この赤い門をくぐる時、人々は祈りを捧げ神々の聖域へと歩を進めます。樹齢400年を超えるクマスギの巨樹が続く並木は、8年前のTVコマーシャルで一躍、人気観光スポットとなりました。反面、多くの人々が歩くことによる杉の根への踏圧の影響も懸念されています。

- 長野しんきん
月例調査レポート 2
- 企業アンケート
人手不足 ② 6
- インタビュー
変革期の経営ビジョン 8
- 北信濃 江戸時代の風景 (46)
善光寺の仲見世(続) 10

あなたに元気、まちに活気。



長野信用金庫

概況 全産業

生産は2カ月ぶりの上昇 前年同月比は19カ月連続の上昇

◇30年2月の長野県鉱工業指数

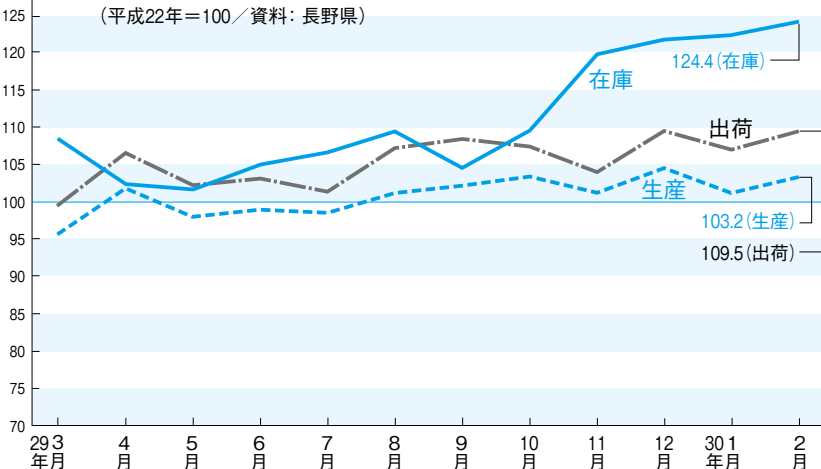
(速報：季節調整済指数)

生産は103.2(前月比+2.1%)で2カ月ぶりの上昇、出荷は109.5(同+2.3%)で2カ月ぶりの上昇、在庫は124.4(同+1.6%)で5カ月連続の上昇となりました。

◇前年同月比(原指数)

生産は99.3(前年同月比+6.9%)で19カ月連続の上昇、出荷は104.6(同+7.8%)で19カ月連続の上昇、在庫は121.0(同+13.8%)で4カ月連続の上昇となりました。

●長野県鉱工業の生産・出荷・在庫指数(季節調整済)の推移
(平成22年=100/資料：長野県)



[生産] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、輸送機械、電気機械など14業種
低下…食料品、その他、紙・紙工品の3業種

[出荷] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、その他、輸送機械など13業種
低下…電子部品・デバイス、化学、窯業・土石製品の3業種

[在庫] 上昇…電気機械、電子部品・デバイス、はん用・生産用・業務用機械など9業種
低下…情報通信機械、食料品、金属製品など7業種

月例調査

全産業の「売上高」は増加

前回調査 平成30年2月

◇4月調査による[北信地区の経済状況]

全産業(不動産業・旅館業を除く)の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(31

%)が3割増加、「減少」割合(25%)が3割減少、「不変」割合(44%)が横ばいで、全体としては増加の状況です。

●売上高(生産高・施工高)前年比「増加・不変・減少」割合

矢印は前回調査比(3ポイント以上の動き)

↑ 増加 → 不変 ↓ 減少
↗ 改善 ↖ 不変 ↘ 悪化

全産業
不動産業・
旅館業を除く

前回

今回

28.0 ↘	43.6 →	28.4 ↗	↘
増加 ↗ 31.3	不変 → 43.5	減少 ↘ 25.2	↗

製造業

43.8 ↗	35.7 ↘	20.5 →	↗
--------	--------	--------	---

建設業

26.2 ↘	44.6 ↗	29.2 →	↘
--------	--------	--------	---

卸小売業

26.1 ↗	50.0 →	23.9 ↘	↗
--------	--------	--------	---

サービス業

37.5 ↘	37.5 ↗	25.0 ↗	↘
--------	--------	--------	---

輸送業

18.2 →	27.3 ↗	54.5 ↘	↗
--------	--------	--------	---

外食業

9.1 →	81.8 ↗	9.1 ↘	↗
-------	--------	-------	---

218社(回収率86.5%)	30人未満 74.3%	30人以上 25.7%
214社(回収率85.6%)	30人未満 75.2%	30人以上 24.8%
73社(回収率82.0%)	30人未満 71.2%	30人以上 28.8%
65社(回収率89.0%)	30人未満 84.6%	30人以上 15.4%
46社(回収率82.1%)	30人未満 87.0%	30人以上 13.0%
8社(回収率88.9%)	30人未満 62.5%	30人以上 37.5%
11社(回収率100.0%)	30人未満 18.2%	30人以上 81.8%
11社(回収率91.7%)	30人未満 63.6%	30人以上 36.4%

製造業

食料品、金属加工品、一般機械、電気機械、自動車部品、精密機械

「生産高」横ばいの金属加工以外は増加

製造業の生産高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(44%)が11ポイント増加、「減少」割合(21%)が横ばい、「不変」割合(36%)が10ポイント減少し、全体としては増加の状況です。

●生産高前年比「増加・減少」割合(%)

製造業	前回	33.3	45.9	20.8
	今回	増加 43.8	不変 35.7	減少 20.5
食 料 品	23.5	41.2	35.3	
金 属 加 工	42.9	28.5	28.6	
一 般 機 械	60.0	20.0	20.0	
電 気 機 械	33.3	66.7	0.0	
自 動 車 部 品	50.0	25.0	25.0	
精 密 機 械	71.4	28.6	0.0	

[業種別] 増加…食料品・一般機械・電気機械・自動車部品・精密機械
横ばい…金属加工

[機械稼働] (前回比) 稼働率 上昇

上昇割合 (14%) → 25%

下降割合 (19%) → 11%

[受注状況] 受注量(前回比) 増加

増加割合 (19%) → 26%

減少割合 (21%) → 14%

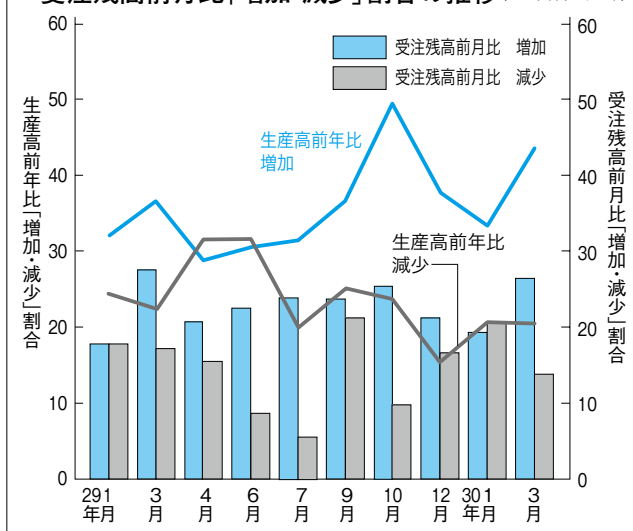
受注残高(1.8ヵ月) → 1.9ヵ月

[受注基調] (前回比) 上昇

上昇割合 (18%) → 31%

下降割合 (24%) → 11%

●生産高前年比「増加・減少」割合と受注残高前月比「増加・減少」割合の推移(％/資料:当金庫)



企業からのコメント

☆気温の上昇で市場の動きはよくなったが、GW前の動きがとても重要になる。(そば)

★運送業者の配送料の上昇を受け、小ロットの配送が困難となっている。(農産物加工)

☆★これまで一部のユーザーで安定していた売価も、値下げ要請が始まっている。(ダンボール)

☆★受注は安定しているが、先の見通しが不透明で、原材料の値上げが続く。(樹脂加工)

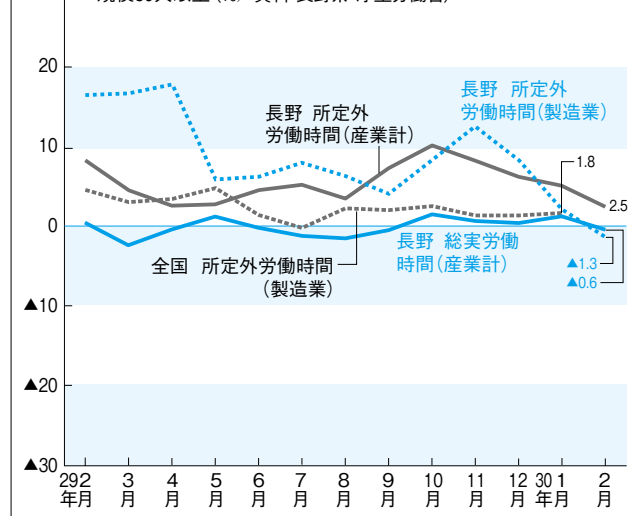
★☆スマホ関連の半導体は現在、生産調整が続いているが、車載関連は堅調である。(電子部品)

★一部部品の供給が遅れており、受注納期の延伸がみられる。(制御盤)

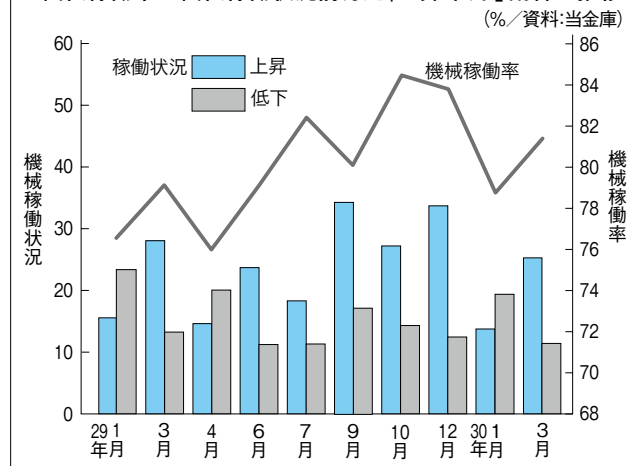
★春野菜の出荷が増えてきのこ価格が暴落。農家の設備意欲が低下し受注が減少。(きのこ生産機器)

●長野県の労働時間の動き(前年同月比)

規模30人以上(％/資料:長野県・厚生労働省)



●機械稼働率と機械稼働状況前月比「上昇・低下」割合の推移(％/資料:当金庫)



建設業

総合建設、土木工事、建築、各種設備

「施工高」各種設備は増加したが、全体は減少

概 況

建設業の施工高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(26%)が6ポイント減少、「減少」割合(29%)が1ポイント増加、「不変」割合(45%)が5ポイント増加し、全体としては減少の状況です。

●施工高前年比「増加・減少」割合(%)

建設業	前回	32.3	40.0	27.7
	今回	増加 26.2	不変 44.6	減少 29.2
総合建設業	16.7	75.0		8.3
土木工事業	45.5		18.1	36.4
建築業	8.3	50.0		41.7
各種設備業	44.4		33.4	22.2

【業種別】 増加…各種設備

減少…総合建設・土木工事・建築

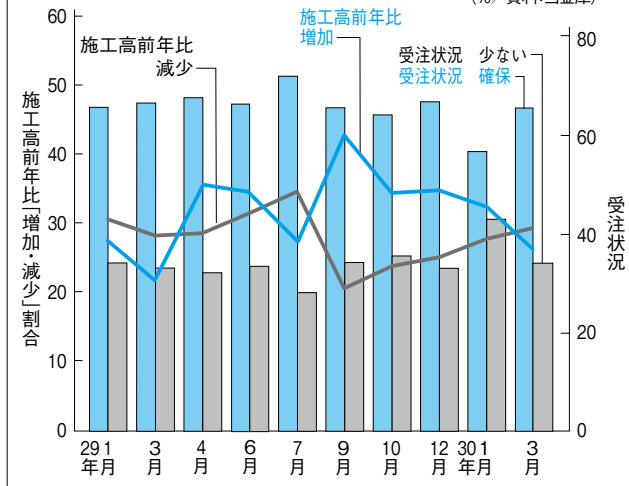
【受注状況】 受注残高(前回比) 改善

「多い・適正」割合 (57%) → 66%

「少ない」割合 (43%) → 34%

●施工高前年比「増加・減少」割合と受注状況の推移

(%/資料:当金庫)



企業からのコメント

☆来年の消費税増税が現実的となり、いよいよ駆け込み需要が出始めている。(建築)

★30年度の大型公共事業が少なく不安。東京五輪関係工事も本格化する中、人材確保が課題。(給排水設備)

☆秋以降の引き合いが全社的に増加しているが、労働装備力を抑え、単価面と施工能力を十分確保した上で、受注に結びつけたい。(内装)

4～3月の公共工事 (東日本建設業保証取扱分)

長野県の4～3月の発注合計は、1,913.7億円(前年同期比+9.8%)となりました。前年比プラスは「そのほか」の401.0億円(同+146.3%)で、マイナスは「国」の292.5億円(同▲9.6%)、「県」の445.7億円(同▲1.4%)、「市町村」の638.3億円(▲5.4%)です。

北信地区市町村の発注合計は235.6億円(同▲2.6%)で、うち長野市は124.0億円(同▲8.4%)でした。

●建設業保証取扱分から見た長野県と北信地区市町村の公共工事の状況(平成30年3月/29年4月～30年3月累計)

(単位=百万円/資料: 東日本建設業保証株)

		30年3月	前年同月比	29年4月～30年3月	前年同期比
長野県	国	1,254	▲70.5%	29,252	▲9.6%
	県	5,278	1.3%	44,569	▲1.4%
	市町村	1,782	▲47.4%	63,825	▲5.4%
	そのほか	1,446	10.5%	40,096	146.3%
	合計	11,079	▲23.8%	191,374	9.8%
北信地区	市町村	475	▲69.7%	23,557	▲2.6%
	(内長野市)	400	7.6%	12,398	▲8.4%

4～3月の新設住宅着工戸数

長野県の4～3月の新設住宅着工戸数は12,020戸(前年同月比▲0.1%)でした。持家が6,662戸(同▲2.9%)、貸家が3,701戸(同+2.0%)、分譲が1,629戸(同+7.1%)、給与が28戸(同+27.3%)です。

北信地区の4～3月の新設住宅着工戸数は3,417戸(同▲8.6%)でした。持家が1,879戸(同▲6.8%)、貸家が1,113戸(同▲10.5%)、分譲が419戸(同▲12.2%)、給与が6戸(同+200.0%)です。

●北信地区と長野県の新設住宅着工戸数

(平成30年3月/29年4月～30年3月累計)

(資料:長野県)

		持家	貸家	分譲	給与	合計
北信地区	3月	126戸	33戸	29戸	0戸	188戸
	(内長野市)	92戸	27戸	17戸	0戸	136戸
	前年同月比	16.7%	▲50.0%	11.5%	—	▲6.0%
	(内長野市)	24.3%	▲38.6%	13.3%	—	2.3%
	4～3月	1,879戸	1,113戸	419戸	6戸	3,417戸
長野県	前年同期比	▲6.8%	▲10.5%	▲12.2%	200.0%	▲8.6%
	3月	464戸	264戸	200戸	0戸	928戸
	前年同月比	3.6%	22.2%	138.1%	▲100.0%	23.2%
	4～3月	6,662戸	3,701戸	1,629戸	28戸	12,020戸
	前年同期比	▲2.9%	2.0%	7.1%	27.3%	▲0.1%

卸小売業

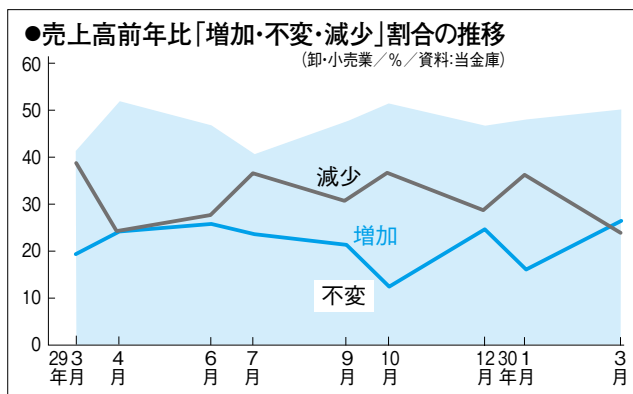
卸売業、小売業

「売上高」卸売・小売ともに増加

卸小売業の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(26%)が10ポイント増加、「減少」割合(24%)が12ポイント減少、「不変」割合(50%)が2ポイント増加し、全体として売上は増加の状況です。

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

卸小売業	前回	16.0	48.0	36.0
	今回	増加 26.1	不変 50.0	減少 23.9
卸売業		35.0	45.0	20.0
小売業		19.2	53.9	26.9



【業種別】増加…卸売業・小売業

3月の消費者物価指数(長野市) 平成27年基準=100

◇総合指数(確報値)……101.2(18カ月連続のプラス)

(前月比▲0.4%、前年同月比+1.0%)

上昇…「被服及び履物」「家具・家事用品」

下落…「食料」「教育」「教養娯楽」「諸雑費」

◇生鮮食品を除く総合指数…100.9(15カ月連続のプラス)

(前月比+0.1%、前年同月比+1.0%)

企業からのコメント

- ★果物は“高値疲れ”で販売低下。今年の果実は「早期開花」による“前進出荷”を不安視。(青果物卸売)
- ☆4月にビールメーカー3社の値上げがあり、駆け込み需要が見られた。(酒類卸小売)
- ★人手不足で賃金ベースが上昇しても、その分、消費に結びついていない感がある。(スーパー)
- ★☆客の動き、商品の動きは低調。ただし、リフォーム工事関連は好調。(家電小売)
- ☆やっと、個人消費が上がってきた。(スポーツ用品小売)

サービス業

サービス、輸送、外食、観光、不動産

「売上高」外食・輸送は増加、サービスは減少

サービス業 売上高前年比「増加」割合は18ポイント減少の38%、「減少」割合は3ポイント増加の25%、「不変」割合は15ポイント増加の38%と、売上は減少しています。

輸送業 売上高前年比「増加」割合は2ポイント減少の18%、「減少」割合は6ポイント減少の55%、「不変」割合は7ポイント増加の27%と、売上は増加の状況です。タクシー・運送ともに横ばいの状況です。

外食業 売上高前年比「増加」割合は1ポイント増加の9%、「減少」割合は16ポイント減少の9%、「不変」割合は15ポイント増加の82%と、売上は増加しています。

観光(旅館)業 入込数は平均で前月比11ポイントの減少、前年同月比は4ポイントの減少で、宿泊利用は伸び悩んでいます。

不動産業 需給状況は前回に比べ、「双方手控え・どちらも低調」は9ポイント減少の46%、「引合いや増加」は横ばいの27%でした。

企業からのコメント

- ★乗務員確保が深刻化。業者間では「労務倒産」がささやかれている。(タクシー)
- ☆土地・中古住宅に動きがある。特に土地は条件なしの物件は引き合いが多い。(不動産)
- ☆入り込みはほぼ前年並み。今後、増加する外国人客への通訳スタッフが必要になる。(ホテル)
- ★☆全般に個人客の入り込み・集客が苦戦。露天風呂付きの高価格帯で支えている状況。(日本旅館)

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

サービス業	前回	55.6	22.2	22.2
	今回	増加 37.5	不変 37.5	減少 25.0
輸送業	前回	20.0	20.0	60.0
	今回	18.2	27.3	54.5
うちタクシー業		0.0	100.0	0.0
うち運送業		28.6	42.8	28.6
外食業	前回	8.3	66.7	25.0
	今回	9.1	81.8	9.1

不足解消策として求める人材 「一定のキャリアを積んだミドル人材」50%

人手不足の対応策 「業務プロセスの改善」36%

企業アンケート 人手不足 ② 30年3月調査

不足解消策として求める人材 半数の企業が「一定のキャリアを積んだミドル人材」、5分の1の企業が「新卒等の若手社員」と答えています。

人手不足の対応策 トップ3の「業務プロセスの改善」「賃金・処遇等採用条件の改善」「従業員の兼任化」が3割台に並びました。

不足解消策として求める人材

2位「新卒等の若手社員」20%

「人手不足」と答えた企業に「不足解消策として求める人材」を聞きました。

ちょうど半数の企業が「一定のキャリアを積んだミドル人材」と答え、次いで「新卒等の若手社員」が20%、「パート・臨時職員等」と「年齢・経験等不問」が10%台、「経験豊富なシニア人材」は5%で、「外国人」は0%でした。

従業員規模で見ると、30人未満は「一定のキャリアを積んだミドル人材」(57%)が30人以上より25%

高く、30人以上は「パート・臨時職員等」(24%)が16%、「年齢・経験等不問」(15%)が6%、30人未満より高くなっています。

業種別

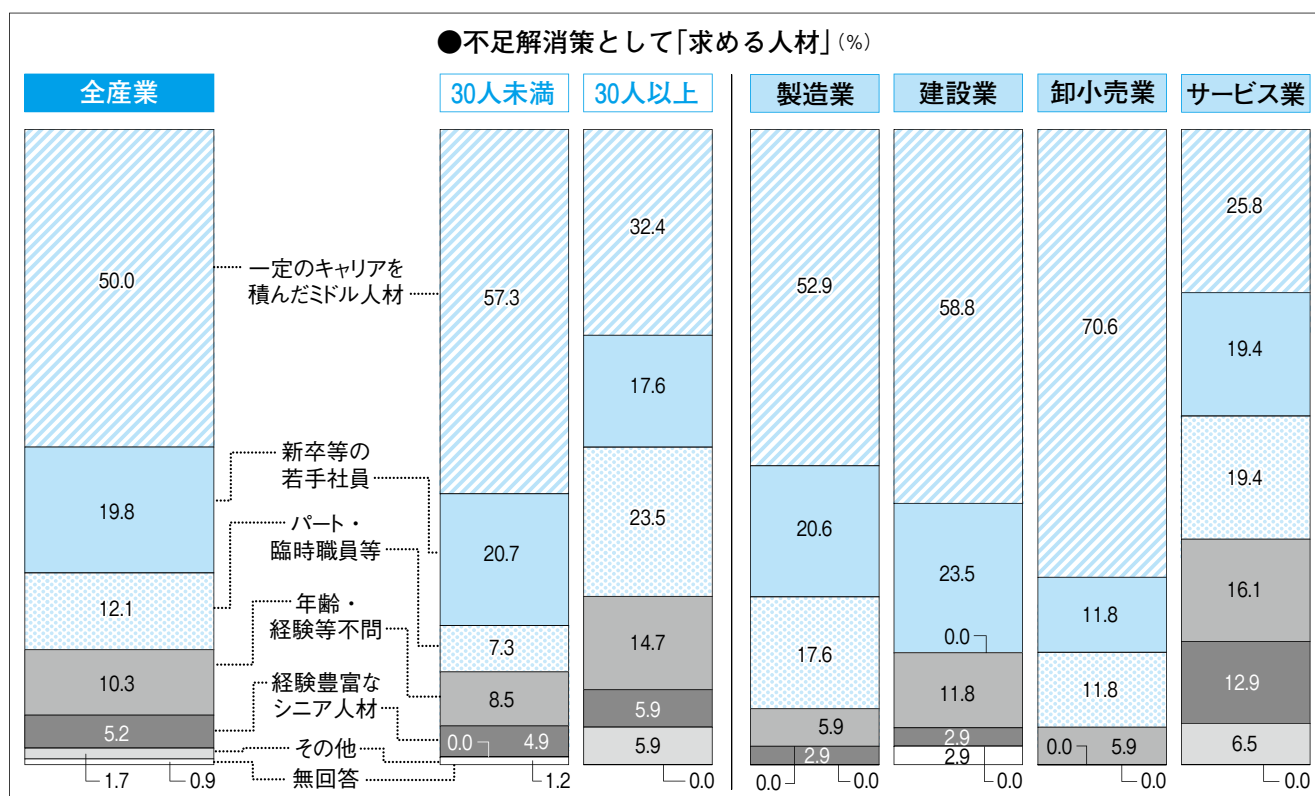
幅広い人材を求めているサービス業

製造業 「年齢・経験等不問」(6%)が他業種に比べ最も低くなりました。これ以外の項目は、全産業(平均)と大差ありません。

建設業 「新卒等の若手社員」(24%)が他業種に比べ最も高くなりました。他方「パート・臨時職員等」(0%)は他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 「一定のキャリアを積んだミドル人材」(71%)が他業種に比べ最も高くなりました。他方「新卒等の若手社員」(12%)、「年齢・経験等不問」(6%)、「経験豊富なシニア人材」(0%)は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「パート・臨時職員等」(19%)、「年齢・経験等不問」(16%)、「経験豊富なシニア人材」



(13%)が他業種に比べ最も高くなりました。他方「一定のキャリアを積んだミドル人材」(26%)は他

業種に比べ最も低くなり、サービス業は幅広い人材を求めていることがわかります。

人手不足の対応策

「業務プロセスの改善」36%

「賃金・処遇等採用条件の改善」32%

「従業員の兼任化」30%

「人手不足の対応策として考えられるもの」を聞きました。

「業務プロセスの改善」(36%)をはじめ、「賃金・処遇等採用条件の改善」(32%)、「従業員の兼任化」(30%)のトップ3が3割台になりました。2割台には「業務の一部外注化」(27%)、「高齢者採用」(23%)、「IT化、設備導入による省力化」(22%)が、ほかに「女性の採用増」「他企業との協働化」「外国人の採用」が1割前後になっています。

業種別

「従業員の兼任化」製造36%

「業務の一部外注化」建設39%

「業務プロセスの改善」卸小売49%

「賃金・処遇等採用条件の改善」サービス43%

製造業 「従業員の兼任化」(36%)と「IT化、設備導入による省力化」(28%)は他業種に比べ最も

高くなりました。

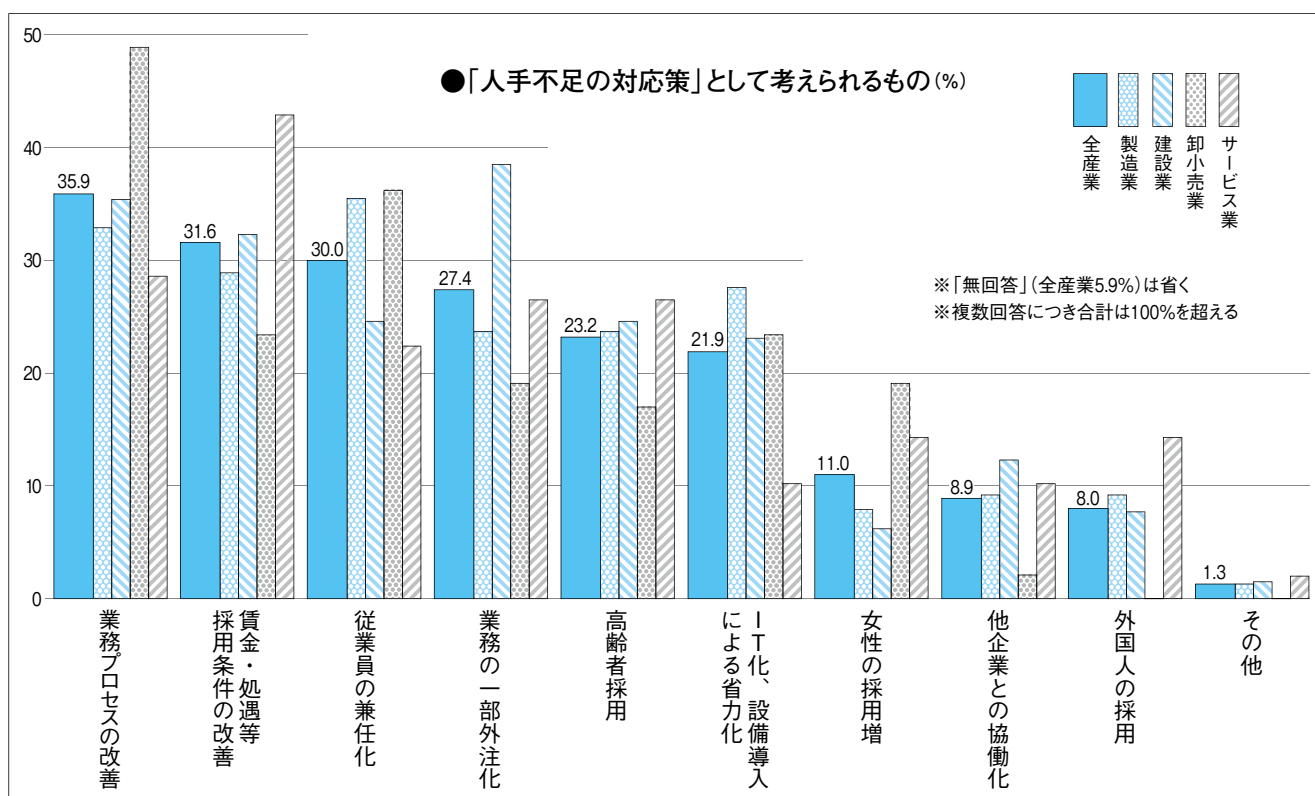
建設業 「業務の一部外注化」(39%)、「他企業との協働化」(12%)が他業種に比べ最も高くなりました。他方、「女性の採用増」(6%)は他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 「業務プロセスの改善」(49%)、「従業員の兼任化」(36%)、「女性の採用増」(19%)が他業種に比べ最も高くなりました。他方、「賃金・処遇等採用条件の改善」(23%)、「業務の一部外注化」(19%)、「高齢者採用」(17%)、「他企業との協働化」(2%)、「外国人の採用」(0%)は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「賃金・処遇等採用条件の改善」(43%)、「高齢者採用」(27%)、「外国人の採用」(14%)が他業種に比べ最も高くなりました。他方、「業務プロセスの改善」(29%)、「従業員の兼任化」(22%)、「IT化、設備導入による省力化」(10%)は他業種に比べ最も低くなっています。

◇次号は「今日の人手不足の原因」と

「従業員の一歩の不満は何か」を予定



インタビュー 変革期の経営ビジョン



農薬の調査・分析を通して 明日の環境を科学する

株式会社エスコ
代表取締役 北條敏彦さま

●会社設立の経緯からお聞きます…

当社は平成3年に、全農系統の農薬メーカーである協友アグリ株式会社(旧：八洲化学工業(株))の長野事業所内にある研究所の農薬残留分析室を中心に環境分析センターとして設置され、自社事業所での排水分析、作業環境、製品の品質などを分析・調査をする部署として発足しました。平成7年には、研究所のうち農薬残留分析、安全性試験の分野の研究室を発展的に分社化し、株式会社エスコとして誕生しました。

●エスコになって仕事幅を広げられたのですか…

当社は、農薬を販売とする会社ではありませんが、農産物の安定的な確保のための農業資材として使用される農薬の安全性をいかに確保するか、また環境リスクをどの様に低減させられるかを追求することが使命の会社と考えています。そのために農薬も多くの化学物質と同様に農業の場や家庭生活の中でも多く使用されるため、それらの安全性の確保や環境への影響については農林水産省：農薬の毒性および残留性に関する試験の適正実施に係る基準(農薬GLP試験)の適合性確認を受けて、客観性と信頼性を確保した試験や調査データを提供する体制としています。

現在、親会社100%出資の会社ですが、主として農水省・環境省などの事業が35%、外資などを含めた商系農薬メーカー関連事業が50%程度であり、ほかには県や自治体、ゴルフ場や地元企業からの受託となります。

●同類の企業は全国にありますか…

当社の仕事の分野は大きく3部門あります。まずは、使用された農薬の残留性などを調べるために農産物や土・水などの環境試料の農薬を中心と

した分析を担当する部門。つぎに、農薬の使用場所は農地や畑など環境や自然環境に近いところです。時間の経過とともに用水路から川へ、さらには湖、湖から海へと移動し自然環境に影響します。これらを担当するのが環境部門です。もう一つは、農薬は農産物にとって好ましくない病虫害防除のために使用されますが、使用された農薬は環境中、特に生態系において藻類や甲殻類さらには魚類などに影響する危惧があるため、それぞれの生物相において毒性試験の必要があります。これらの毒性影響試験を実施するのが生態毒性部門です。

このように、農産物の残留性安全性試験や河川などへの環境影響調査さらには生態毒性試験まで各試験と評価を体系づけて実施可能な事業所は、外郭団体などの試験研究機関のほかでは民間試験事業所としては稀と言えましょう。

●社員の平均年齢は…

弊社は来年に創立25年目を迎えますが、社員の平均年齢は30代中頃で非常に若い会社です。また、男性と女性の比率は半々ぐらいです。近年では新卒採用を積極的に進めていますが、新卒者の離職率は極めて低い状況にあります。

それぞれ社員の特徴はありますが、いろいろな業務で一番活かせるところをやらせるよう部門や担当など配慮しています。また、待遇や機会は平等にして、男性と女性で基本的に差はつけないように考えています。

●従業員の技術向上に関する会社支援は…

農薬については、まだ世の中では正確な情報発信や理解の不足からマイナスなイメージがあります。大学などで農薬や環境に対する勉強を得た従業員は比較的に現状の課題や取り組む課題など認識が早い傾向にあります。他分野や中途社員の場合でも農薬への多くの違和感は無くなり、もっと見方を変えるような意識になってくる人が多いです。我々の業務は、日々の国や農薬メーカーの動向とともに、専門的な知識や情報を得ることが重要です。最新の知見を得るために、各種学会や大

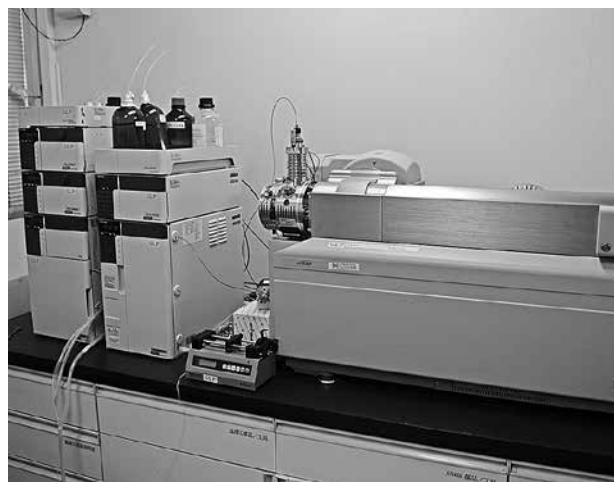
学、国の主催する研究会やセミナーに担当者を積極的に参加させ、農水省・環境省などの行政動向や、ガイドラインなど技術面がどのように変わっているかの情報を得ています。これらの情報などを社内に共有化させ浸透普及させることも重要であるため、社内での定期的な研修会や朝礼などでタイムリーに話をするように努めています。

技術や意識変革のための研修会やセミナーへの参加は全従業員を対象としており、そのための参加費や派遣費用は会社負担としています。さらに会社に必要な資格取得には一時祝金の支給制度も整備しています。

●常に日々勉強という感じなのですか…

理想的にはそうですが、OJT教育が中心となると中々そうはいきません。忙しさがピーク的时候には仕事に集中せざるを得ない場合が多いですが、研修会やセミナー参加には、事前に業務を調整するなり、自ら少し手が空いた時には知識や技術習得の時間を作り出す工夫などを指導しています。

国は、2021年度から農薬取締法の改正により農薬の再評価制度の導入を予定しており、既存剤を含めたすべての登録剤の安全性試験データの最新の知見に基づく見直しが行なわれます。今後7～8年程度の間は、当社にとっても大きな業務拡大のチャンスとなると考えていますが、同時に会社と社員にとっても成長の良い機会となることを期待したいです。



農薬残留分析装置

●今後の方針や課題などをお伺いします…

皆さんもご存じの通り、TPP11が締結されようとしています。そのほかEPAの欧州については批准が進められ、我が社が関連する環境や農業の分野においても自由貿易主義の国際的な流れの中にあります。

特に農業については、「農業競争力強化支援法」が、昨年8月に国会において施行されました。これは、「日本の農業を守るために、農家さんに農業資材のいいものを格安に提供するように、国が率先して変えていく」のが目的です。さらに外国には「積極的に日本の農産物のブランドを売っていきましょう」と言っています。外国からの農産物の輸入量が増え、外国との競争が激化することが予想されます。そのような状況になったとしても食や農産物の安全・安心や環境への配慮などに対する国民の意識や欲求はさらに強くなるものと考えられます。

当社の関わっている農産物の安全性、環境への影響評価に関する事業の必要性や重要性が高まる中で、農産物の安定的な供給のために農薬への懸念の低減や安全性の確保のため、今後も信頼性と客観性のある評価根拠を提供することが当社の責務であり、社会に貢献できることと考えます。「明日の環境を科学する」を旗印に、高い技術と信頼性を保証しながら社会の要請にこたえるためには、当社として人も物も技術もさらに向上させていかなければと考えています。

●事業の概要

設立 1995(平成7)年
資本金 5千万円
代表 北條 敏彦
従業員 35名(男18名・女17名)
業務 農薬および環境に関わる試験研究
事業所 長野市大字富竹173-2
URL http://www.ecoscience.co.jp/top_company.html

●沿革

1991(平成3)年 八洲化学工業株式会社環境分析センターとして設置
1995(平成9)年 株式会社エスコ設立

北信濃 江戸時代の風景

(46) 善光寺の仲見世(続)

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



本年度は、文政10年(1827)に出版された広告集、『諸国道中商人鑑』(善光寺之部)の絵を紹介しています。今回は前回に引き続き善光寺の仲見世です。

絵を読む

下の図は、「善光寺仁王門内左り側五軒目」の「玉屋清四郎」の広告です。「左り」とあるのは、昔は「左」に送り仮名の「り」を付ける習慣があったからです。この店が仲見世西側(左側)の南から5軒目であったことが分かります。店の様子が描かれていて、店先で客と対応する女たちと、店内で作業をする男たちが描かれています。暖簾には「玉屋」の文字と、井桁(井)に「竹」と書かれた目印があります。

商品は、中央に建てられた看板(箱看板)の左側に並べられています。また右手奥には引き出しがたくさんあって、その中にも商品が入っているのでしょう。

箱看板

この図にはさまざまな看板が描かれています。

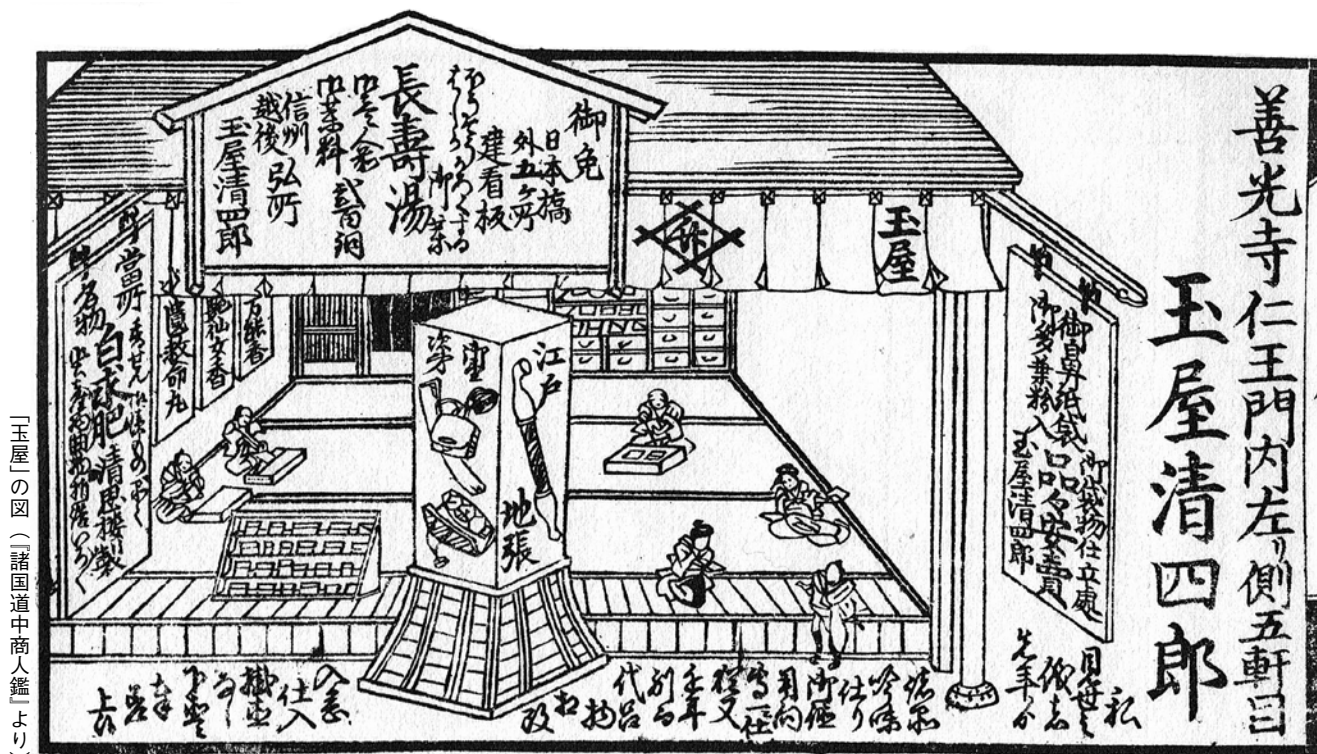
中央に建つ看板は移動式で、箱型なので箱看板と呼びます。右面に煙管の絵があり、「江戸」「地張」の文字があります。「江戸」は「江戸張り煙管」の略で、江戸製の煙管のことです。「地張」は「地張り煙管」の略で、本来はそう呼ばれる煙管の種類があるのですが、ここでは地元で作られた煙管という意味かもしれません。

箱看板の左側には、印籠と根付と思われるものが描かれ、上に「御望次第」と書かれています。この店はさまざまな商品を扱っていますが、こうした煙管や印籠が文字通り看板商品なのでしょう。

下げ看板

右側に下げられた看板は、上段に「御鼻紙袋、御多葉粉入」と書かれています。鼻紙袋は鼻紙や小物を入れる袋、煙草入れは刻み煙草を入れる袋です。下段には「御袋物仕立処、品々安売、玉屋清四郎」と書かれています。こうした自家製の袋物も、玉屋の主力商品であったようです。

左側の下げ看板には、上段に「当所名物」とあり、



「玉屋」の図(『諸国道中商人鑑』より)



御開帳でにぎわう善光寺境内（『地震後世俗語之種』より）

その下に「白求肥、清思楼製」と書かれています。
 求肥ぎゅうひは現在は和菓子の材料ですが、江戸時代には単体の求肥餅として、善光寺門前の名物になっていました。「白求肥」というからには、この店ではその白さを売りにしていたのでしょう。「清思楼」は「清四郎」の文字を換えただけですから、玉屋の製菓部でしょう。

看板の「白求肥」の右側には、「香せん、御漬もの、品々」、左側には「御土産物、曲物、折詰、いろいろ」と書かれています。実に幅広く商品を扱っていることが分かります。

高札看板

上部には高札型の看板があります。「御免、日本橋ほか、外五ヶ所、建看板」とあるのは、江戸の日本橋ほか5か所にこうした看板を立てることを許可されているということでしょう。宣伝しているのは、「ほうそう、はしか、かるくする御薬、長寿湯」です。

代金は「御壺人前、御薬料、式百銅」（一人前200文）です。「信州、越後、弘所、玉屋清四郎」とありますから、玉屋は信州と越後で「長寿湯」の販売権を持っているのです。

このほか店の奥には、「救命丸」「仙女香」「万能香」といった看板も掛けられています。

口上

下段には、「私見世之儀は、先年より諸品吟味仕り、御徳用向専一二仕、猶又近年別而代呂物相改入念仕入、掛直なし、下直ニ奉差上候」と口上が書いてあります

（現代語訳）私の店は、先年から商品を吟味して、お徳用なものばかりを扱っております。さらに近年はいっそう商品を選んで、念入りに商品を仕入れ、掛け値なし、廉価で差し上げております。

善光寺仲見世の商店は、単に土産物を売っていたわけではなく、地元民にも利用される店だったのです。

裏通りは見世物小屋

右上の図は、『地震後世俗語之種』に描かれた、弘化4年(1847)の御開帳時の善光寺境内の賑わいです。仲見世に並ぶ店々はすべて平屋で、奥行きがありません。「玉屋」もその中の1軒であるはずです。裏が広く空いているので、そこにはむしろを張った小屋が立ち並んでいます。同書によれば、曲馬、軽業、芝居など、20以上の小屋が立ち並んでいたということです。

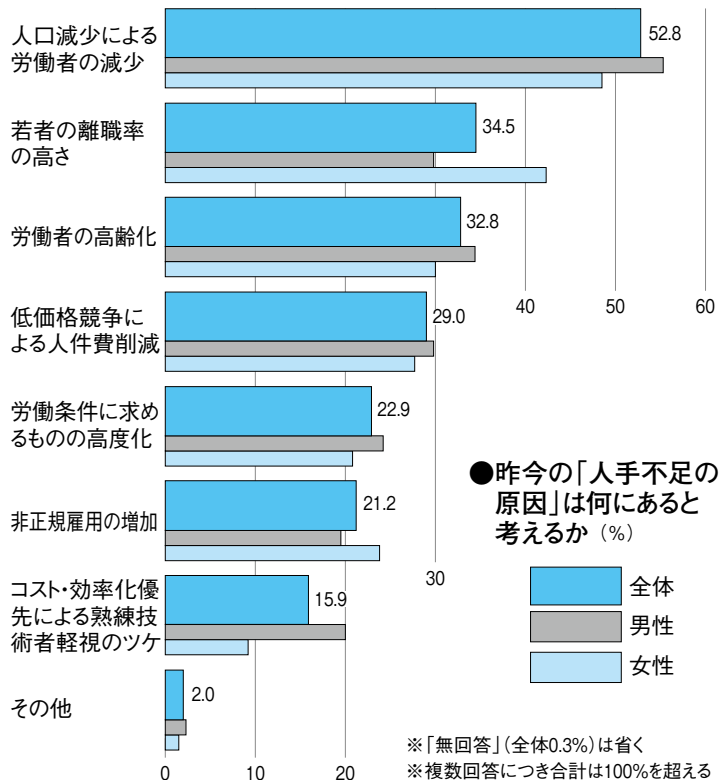
6月号は「善光寺の東大門」の予定です。

人手不足の原因 「人口減少による労働者の減少」53%
「若者の離職率の高さ」35%
「労働者の高齢化」33%

「昨今の人手不足の原因は何にあると考えるか」を聞きました。

トップになったのは、5割を超える「人口減少による労働者の減少」ですが、3割台に「若者の離職率の高さ」「労働者の高齢化」が並び、「低価格競争による人件費削減」「労働条件に求めるものの高度化」「非正規雇用の増加」「コスト・効率化優先による熟練技術者軽視のツケ」と続いています。

上位の「人口減少による労働者の減少」は年齢と反比例して10～20代(56%)が50代以上より9ポイント高く、「若者の離職率の高さ」は女性(42%)が男性より13ポイント高く、「労働者の高齢化」は年齢と正比例して50代以上(42%)が10～20代より17ポイント高くなりました。〈当金庫・30年3月調査〉



●みなさまの経営相談のご案内 [6月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
6月 6日 水	若槻支店 (城北支店)	東長野支店 (柳原支店)	6月 19日 火	石堂支店 (伊勢宮支店)	七瀬支店 (南支店)
7日 木	稲荷山支店 (屋代支店)	上山田支店 (戸倉支店・坂城支店)	21日 木	篠ノ井支店 (川柳支店)	松代支店 (更北支店)
11日 月	中野支店 (小布施支店)	山ノ内支店 (飯山支店)	22日 金	大門町支店 (桜枝町支店)	飯綱支店
12日 火	権堂支店 (善光寺下支店)	川中島支店 (川中島駅前支店)	26日 火	本店営業部	古里支店 (吉田支店)
13日 水	長池支店 (大豆島支店)		28日 木	本 部	
18日 月	須坂支店 (墨坂支店・太子町支店)	豊野支店	29日 金	本 部	

●6月の「しんきん事業相談会」は6月6日(水)です

長野信用金庫 総合企画部

本店 〒380-8686 長野市居町 133-1 TEL 026-228-0221(代)

長野信用金庫 URL <http://www.nagano-shinkin.jp/>

●「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます●

